

研究課題名

高度慢性下肢虚血肢患者に対する distal bypass 術後のレオカーナ療法の有用性:診療記録を用いた後ろ向き観察研究

研究責任者の氏名

中村 康人

共同研究者の氏名

熊田 佳孝、石田 成吏洋、河合 憲一

研究の目的及び方法

高度慢性虚血肢足壊疽（CLTI）患者で足壊疽を伴っている場合は内科的治療で治癒することは通常なく、distal bypass 手術が必要になることが多い。しかし、抹消の血流が十分でない場合は distal bypass 手術のみでは足趾抹消までの血流が十分でないことがある。

近年、レオカーナ療法（LDL 吸着療法）の有用性が指摘されており、過去にカテーテル治療後のレオカーナ療法の有用性が報告されてきている。しかし、カテーテル治療後のレオカーナ療法の検討しか行われておらず、distal bypass 術後のレオカーナ療法の報告はない。Distal bypass 術後にレオカーナ療法を行うことで足趾までの血流が改善し、創部治癒、連続歩行距離が改善するかを検討する。

利用する情報項目

対象患者の年齢、既往歴、血液データ、治療前後の ABI、SPP、連続歩行距離を用いる。

利用するものの範囲

中村 康人、熊田 佳孝、石田 成吏洋、河合 憲一

連絡先

松波総合病院 心臓血管外科 中村 康人

TEL : 058-388-0111

FAX : 058-388-4711